

平成 28 年度 第 1 回学校協議会

平成 28 年度学校協議委員

氏名	所属・職名	備考
相川 真佐夫	京都外国語大学教授	会長
北堂 薫	高槻市立第二中学校長	
清水 信行	千里金蘭大学入学センター顧問	
林田 健治	(株)ベネッセコーポレーション高校事業部 大阪府担当	
田上 妙子	芥川高等学校後援会副会長	
金丸 里次子	芥川高等学校 PTA 会長	

開催日：平成 28 年 6 月 29 日（水） 15:30～17:00

出席者：清水委員、林田委員、田上委員、金丸委員

1. 校長挨拶
2. 委員・事務局自己紹介
3. 委属状授与 4 名
4. 会長・会長代行について

会長：相川委員 会長代行：清水委員

5. 資料確認
6. 協議（報告）

(1) 4 月からの学校の様子（藤原首席）

学校新聞芥川より。この新聞を見れば学校の様子がわかるようにしている。

入学式、人事異動、部活動、対面式、新入生歓迎会。

4 月 2 2 日全学年校外学習実施。春の自転車安全交通指導。など記載。

2 2 7 号→2 年生は老人ホーム実習事前学習実施。体育祭結団式の様子。

生物部水泳プールのヤゴ救出活動。バレーボール部近畿大会出場。

2 2 8 号→体育祭について掲載予定。

雨で大変でしたが、たくさんの方が来校され生徒もよく頑張ってくれた。

(2) 学校経営計画に基づく本校の取り組み（河方校長より）

女子が 6 0 %。女子が活発なイメージである。

今年新入生の進路希望は 4 年制大学が 7 0 %。

部活動が盛んで現在 7 9 %が入部している。ダンス部が 1 1 9 人など入部率が非常に高い。和太鼓が全国大会出場そして、今年は女子バレーボール部が近畿大会に出場を決めている。

生徒指導→遅刻者数もここ数年減少傾向にある。

- ・アドミッションポリシー

「やる気と元気に溢れる芥川」をキャッチフレーズに高い人間力と明確な目標を持ち、弛まぬ努力をする生徒を育てる学校。高い志をもって部活動や国際交流活動などの幅広い課外活動に熱心に取り組み、そのうえで、希望進路の実現にも最大限の努力を惜しまない生徒の入学を期待している。

- ・入学者の状況

高槻市内から80%。茨木市内から13%の入学者の割合で、依然近隣からの入学が多い。そのため自転車通学が95%にもなる。自転車事故が増え課題となっている。

<中期的目標>

- ・学力の向上。

授業アンケートを活用し、授業改善を図る。若手教員の授業力向上。ICT活用（予算確保が課題）。自学自習力をつける。本校は自習室が2教室あり、普段から自由に利用でき、特にテスト前、受験シーズンには多数の生徒が利用している。職員室前に椅子、机を置き質問に答えられる体制を作っている。

- ・希望進路の実現。

キャリア教育の推進。卒業生による講話。職業別ガイダンス。進路指導への満足度90%をめざしている。昨年度は88%と非常に高い。きめ細かい進路指導。個別指導を重視。保護者懇談会や個別面談を複数回実施。

- ・グローバルな視野を持つ

生徒の視野を広げる。いろいろな感覚を持ち考えられる生徒を育てる。

国際感覚の育成。オーストラリアからのホームステイ受け入れや台湾への修学旅行で交流を持ちたい。

- ・豊かな人間力も持った生徒の育成

体験学習の充実。保育園実習。学校行事（体育祭、文化祭）などでも規範意識（生徒指導）の醸成を図る。最近の課題はスマホ。アンケートで実態調査している。使い方を考えさせたい。

- ・自転車事故が多い。自転車条例施行に伴い、自転車通学者には保険加入を義務づけている。

- ・人権意識：人権教育をしっかり行い、人権意識を持たせる。

信頼される学校づくり

次世代を支える教員育成し、開かれた学校づくりをめざす。

保護者への適切な進路情報の発信。

(3) 本校の生徒指導について（大西首席<前生徒指導部長>より）

どんどん良くなっている。特別指導、遅刻が激減。特別指導はSNS関係が多い。安心安全な学校になっている。

(4) 学校行事関係 (大西首席<特別活動指導部長>より)

体育祭は、雨で延期になるなど大変だったが無事成功。これから文化祭に向けて準備している。

(5) 進路指導関係 (大島指導指導部長より)

状況はよく頑張っている。専門学校進学者の3人に1人は医療系への進学である。文系学部希望が多いが、医療もここ数年で急上昇。関関同立を目標にする生徒が増えている。希望進路を達成することが大切なので、ひとつ上の目標をめざせるようアドバイスしている。今年から、2年生の「総合的な学習の時間」の中で進路学習の時間を十分に使えるようになった。進路指導部としては生徒へのアプローチの質を上げることが目標にしたい。

(6) 委員からの質問、感想。

委員：娘は今大学生だが、高校に入ったばかりは目標がない人が多い。進学先を考える際に友達の影響が大きい。明確に目標が出せる子と出せない子がいる。親御さんが子どもにまかせている家庭が多いと思われる。本来は親がすべきことで、先生方には負担をかけるとは思うが、目標が持てない生徒へのアプローチをお願いしたい。

委員：娘は看護師をめざしている。行きたい学校よりも行ける学校をめざしてしまう。看護系についての情報に詳しい先生がわからないので聞けないと言っていたことがあった。今は相談できる先生を見つけたようだ。

委員：入学時点の進路志望を叶える、行きたいところに行けるようにきめ細やかに指導しているようだ。スマホ依存は全国的な悩みである。大学受験には直接関係ない科目だが、「情報」の授業の重要度が増している。便利なツールをどう使っていくのが大切。将来は大学入試でも「情報」が入ってくる可能性もあるのではないかと。グローバルの時代。各校で特色を出している。グローバルコースでの取り組みを他のコースに広げていくことも検討してはどうか。

委員：学校経営計画における自己評価は重要だが、数値目標を達成することだけが重要ではなく、取り組んだ内容も大事にしてほしい。来年度の経営計画には内容によっては教職員という表現も検討してほしい。学校の教育活動には、教員だけでなくたくさんの方が関わってくださっている。事務室は学校の窓口でもある。

事務局：生徒の安全確保を最優先している。ベースとなるのは安心と安全である。PTA会費などの私費を適切に合理的に管理する。経営的な観点を入れて積極的に予算運用していきたい。

教頭：本校の「社会と情報」の授業は先進的な取り組みを行っている。関西大学の学生と協力してコミュニケーション重視の展開を行っている。情報モラルについても学習している。

事務局：進路実現の為に、さらに充実を図らなければ。1:40での関わりだけでなく、1:1でももっと関わっていかなければならない。担任が窓口にはなるが、いろんな先

生が重層的に関わっていかなければいけない。

首席：芥川高校は良くなってきているので、ここで満足するのではなく、さらに次のステップに進めるようにしたい。

委員：今後ICT授業展開を具体的にどうしていくのかを検討してほしい。

事務局：予算の問題が大きく左右する。昨年単焦点プロジェクターを導入したところ、授業で活発に利用されている。

委員：最近、BYOD (Bring Your Own Device) といって、生徒が各自で持っている端末を授業を活用する学校もある。私立では先進的な取り組みが行われている。

委員：今年の体育祭の感想を述べる。応援合戦は今までは3年生だけだったが、今年は生徒全員が参加する体育祭という印象があった。閉会式での応援団長のスピーチからもそのことが伺えてとても感動的だった。

委員：先生方が子どもたちのために動いているので、後援会としても子どもたちのために支援に努めていきたい。在校生の保護者にもさらに協力してほしい。小学校から中学、高校と上がるにつれて保護者の協力が少なくなってくる。保護者が協力してくれる体制を作りたい。「親も盛り上げていける学校づくり」を築きたい。

委員：交通安全についての取り組み、自転車保険加入促進への取り組みの報告を次回お願いしたい。

校長より：学校の中だけで考えがちなので、このような形で外部の方から意見が聞けることはありがたい。今後も開かれた学校づくりを進めていきたい。

7. 連絡

- ・次回は11月上旬に開催予定